

構造変化を読み解く視点

社外理事 幸田 博人

2026 年、まだ半年もたっていませんが、世界は様々な事象で振り回されています。昨年 2 期目のトランプ大統領の再登場で、大きな政策転換が行われ、①相互関税などの関税政策、②外交面では、イスラエル・パレスチナ問題、ロシア・ウクライナ紛争などの仲介者としての外交交渉、③不法移民の排斥、麻薬カルテル解体などの移民対策、④石油生産支援、再生エネルギー縮小などのエネルギー政策、⑤AI の取り組み加速化、暗号資産規制緩和、DE&I の後退などです。全ての領域で、大きな政策転換が行われました。いまや、2025 年にこうした大きな政策転換が行われたこと、すでに忘却の彼方になったことも多く、この 2026 年の激動でさらに不透明感が強くなっています。新年迎えて直後のベネズエラ軍事攻撃から、2 月 28 日の米国、イスラエルによる軍事行動が、ホルムズ海峡の封鎖となり、全世界に原油価格上昇、エネルギー供給問題、さらには、化学製品の不足問題など物価や生活面にも大きな影響を与えています。さらに、米中対立構造の深刻化が、足元、トランプ大統領の中国訪問で、米中（G2）大国が 2 国により安定化に向け、足並みを揃えようとしていることが、今後世界秩序に何をもたらすか、気になるところです。

世界でのリスクファクターは大きいにもかかわらず、米国のダウ平均株価は 5 万ドル台、日経平均株価も史上最高値で 6 万円台をつけるという状況です。株式市場は、好調な企業業績や、AI の更なる発展、それに伴う半導体関連産業の隆盛などに目を向けて、高値を追っているように見えます。

そうした日々の様々なマーケットに係る状況に目配りしつつも、表面的なマーケットに係る動きの背後にどういう構造変化が潜んでいるのか、それがどういう地盤変動をもたらす可能性があるのかなどに、想いも巡らせてみることも大事かと思えます。

「金融」「市場」×「テクノロジー」「AI」「デジタル」×「イノベーション」「ビジネスモデル」×「労働市場（人材）」「需要・供給」「コーポレートガバナンス」などの視点で、様々な変化を掛け合わせて見ていくことが、そうした構造変化を読み解くことにつながると思えます。

今回は、金融、市場、経済に直接つながらない書籍（新書）を2冊紹介します。1冊は、鎌田浩毅著『想定外を楽しむ』（幻冬舎新書：2026年）です。有名な地震学者である鎌田氏が、自然現象から想定外のことを読み解きながら人生や生活と想定外との向き合い方について、アドバイスしているものです。生き方の指針にもなります。また、もう1冊は、乾敏郎、門脇加江子著『脳の本質』（中公新書：2024年）です。少し専門的な領域の新書ですが、脳について、最新の研究も踏まえながら脳の原理を紐解いています。このAI時代、記憶、言語、意識の構造など脳の機能の興味深い部分の理解が進みます。AIとの違いをどう考えていくかのヒントになります。こうした分野に視点を広げていくと、様々な世界情勢に翻弄されていることに、流されすぎに過ごしていくには、どういう視点が大切か、ちょっとしたヒントになります。また、資産形成に向けても、じっくり取り組む姿勢にもつながるのではと思います。

(2026年5月15日記 トランプ大統領の中国滞在中)